第50回日本集中治療医学会開催

第50回日本集中治療医学会学術集会（2023年3月2〜4日，京都市）が志馬伸朗会長（広島大大学院：右写真）のもと，「風光る」をテーマに開催された。

1974年2月9日にICU研究会が発足したことに端を発する集中治療医学会は，2024年に創立50周年を迎える。50回の記念大会となる本学術集会では，集中治療の歴史を振り返り，社会における集中治療の存在意義と果たす役割を考察するプログラムが数多く企画された。本紙では，西田修氏（藤田医大病院）による理事長講演「集中治療と日本集中治療医学会：これまでのこと，これからのこと」の模様を報告する。

「COVID-19パンデミックによってわが国の集中治療のレベルの高さが示される一方，その医療提供体制の脆弱性も露見することとなった」。コロナ禍の20年3月に理事長に就任した西田氏はこう振り返るとともに，集中治療に対する認知度の低さを痛感したという。例えば，一般市民・マスコミのみならず行政においても，「集中治療」と「救急医療」の区別がついていない状況があった。また，医師届出票や医療施設調査には「集中治療科」が含まれておらず，集中治療医療提供体制の実態を把握することも困難であった。

専門医機構サブスペシャルティ領域認定，医師届出票への追加

そこで氏は，2020年4月の理事長声明を皮切りにCOVID-19集中治療体制の構築に向けた各種の提言を行い，国や行政への働きかけを強化。さらに学会として超短期更新型のガイドラン「COVID-19薬物療法に関するRapid/Living recommendations」の無料公開，関連学会との共同でCRISIS（横断的ICU情報探索システム）の運用開始など，“COVID-19対策の最後のとりで”を守ることに注力した[1)]。

国・行政も学会の取り組みに応える形で，診療報酬（救命救急入院料・特定集中治療室管理料）の特例措置の実施，学会指針や重症患者レジストリに紐づける形での施設要件の設定などを実施した。

さらには，これまでの学会の歩みにおいて歴史的な出来事が，近年相次いで起こった。2022年4月には，日本専門医機構が集中治療科をサブスペシャルティ領域として認定。また同年10月には医師届出票に「集中治療科」が追加されたのだ。氏はこれを「理事長に就任して以降の大きな目標であり，集中治療医の“悲願中の悲願”であった」と評価した。さらに23年度医療施設調査においては，「ICUに専任する医師数」が追加される見込みであるという（総務省第189回統計委員会議事）。

集中治療領域の人材育成を強化

24年度から始まる第8次医療計画では，新興感染症が新たな事業として加わる。新たなパンデミックに備えるための人材育成が課題となるなか，「集中治療の地位・認知度向上が弾みになると確信している」と期待を表明。欧米に比して圧倒的に少ない集中治療専門医の育成はもちろんのこと，看護師や臨床工学技士，理学療法士の学会認定資格制度などを通して多職種の育成にも意欲を示した。

これまでの集中治療はICUという「ハコ」ばかり着目されがちであったが，今後は「ヒト」の育成に向けた取り組みが本格化していきそうだ。

●写真　理事長講演を行った西田修氏

●参考文献
1）西田修氏．集中治療体制をいかにして再構築するか．週刊医学界新聞第3380号．2020.

金原一郎記念医学医療振興財団助成金

◆第7回生体の科学賞は熊本大の須田年生氏に

●写真　須田年生氏

第7回生体の科学賞授賞式が3月8日，医学書院（東京都文京区）にて行われた。本賞は金原一郎記念医学医療振興財団（代表理事＝上武大・澁谷正史氏）の基金をもとに，2016年度に創設。基礎医学医療研究領域における独自性と発展性のあるテーマに対して，研究費用全般への支援を目的に，1件500万円の助成を行うものである。

今回は，須田年生氏（熊本大）による「造血幹細胞の自己複製機構に関する解析」が受賞した。氏はマウスの胎児肝における幹細胞の大半が自己複製をしており，観察される血液細胞の大部分は造血幹細胞には依存せず，血管内皮細胞から独立して発生していることを発見。この発見は，造血幹細胞の試験管内誘導法の開発に寄与すると考えられ，自己複製と分化イベントはそれぞれ切り離してとらえるべきとの見解を示した。

受賞のあいさつに立った須田氏は，「幹細胞の基礎研究はますます本質に近づいている。こうした時期に研究助成をしていただけたことに深く感謝する」と語った。

澁谷氏は代表理事の立場から，「研究者のポストや補助金の減少など，国内の基礎医学研究における課題は多くある。今回の受賞を糧として，須田先生が基礎医学研究のリーダーとしてさらに活躍されることを祈る」と激励の言葉を述べた。

◆第73回認定証（研究交流助成金・留学生受入助成金）贈呈式

●写真　贈呈式には，13人の交付対象者のうち，東京近郊の5人が出席した。

金原一郎記念医学医療振興財団は3月8日，医学書院にて第73回認定証贈呈式を開催した。同財団は基礎医学の振興を目的に，助成金を年に2回交付している。下期である今回は，海外で行われる基礎医学医療に関する学会等への出席を助成する研究交流助成金と，基礎医学医療研究を目的に日本へ留学する大学院生等を助成する留学生受入助成金が交付された。今回の助成対象者は13人で，贈呈式には研究交流助成金対象者代表のNur Zeynep Gungor氏（理研），留学生受入助成金対象者代表のGe Peng氏（順大），他3人が出席した。

開会に際し，金原優同財団業務執行理事（医学書院）が，医学書院の創業者・金原一郎の遺志を継いで設立された同財団の概要を紹介。「今回の助成金を研究の増進・進展に役立て，今後さらに活躍してほしい」と呼びかけた。

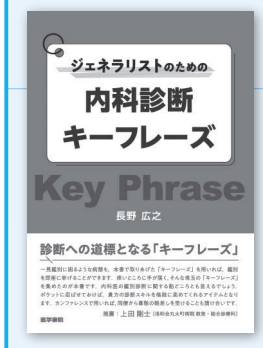
研究交流助成金交付対象者を代表して，恐怖と不安を処理する神経メカニズムについて研究するGungor氏があいさつに立った。氏は本助成金を活用し，本年7月にスペイン・バルセロナにて開催される「感情，認知，疾患における扁桃体の機能」研究会議と同名の研究セミナーに参加予定。マウスを用いた実験により扁桃体中心核エンファリン（CeA-ENK）細胞がネガティブな体験やトラウマからの回復に重要な役割を果たすことを発見した自身の研究に触れ，「世界の著名な研究者との意見交換を通じて，研究の考察を深める絶好の機会にしたい」と研究会議参加への意気込みを語った。

続いて，留学生受入助成金対象者を代表してPeng氏が登壇。氏は，2019年に来日しFrancois Niyonsaba氏（順大）の下でアトピー性皮膚炎と抗菌ペプチドの研究に携わり，本年4月よりポスドク研究員としてアトピー性皮膚炎の分子標的治療の制御・治療法の開発研究に従事する。今回の助成金の交付に感謝の言葉を述べた後に，「研究活動に全力を注ぎ，社会に貢献できるよう努力する」と今後に向けた決意を表明し，あいさつに代えた。

＊助成金の詳細については，同財団ウェブサイト（https://www.kanehara-zaidan.or.jp/）を参照されたい。

医学書院IDの登録はお済みですか？
最新の医学界新聞がメルマガで届きます
医学書院ID 登録

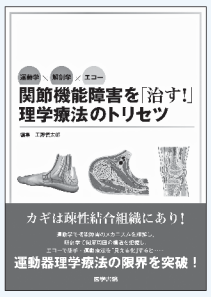
無料 Webセミナー　医学書院
対象　医師（総合診療医，プライマリ・ケア医，家庭医など），研修医
『ジェネラリストのための内科診断キーフレーズ』発刊1周年記念セミナー
内科診断に「キーフレーズ」を実装する！明日からの臨床に役立つTips
日時　2023年4月21日 金 19:00〜20:30
＊上記リアルタイム配信の後，約1か月間アーカイブ配信を予定しています。
講師　長野広之先生
京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野博士課程
プログラム（予定）
19：00　開会のご挨拶
19：05　講演
20：05　視聴者からの質疑・応答
20：25　まとめと終了のご挨拶



参考図書
お手元にご用意いただけますと，セミナーの理解が一層深まります
ジェネラリストのための内科診断キーフレーズ
■2022年4月発行　A5　頁336
定価：3,850円（本体3,500円＋税10%）
［ISBN 978-4-260-04923-8］
詳細・お申込みは医学書院のウェブサイトから

無料 Webセミナー　医学書院
2023年5月13日 土 19:00〜21:00
＊上記リアルタイム配信の後，約1か月間アーカイブ配信を予定しています。
運動学 × 解剖学 × エコー
関節機能障害を「治す！」理学療法のトリセツ
刊行記念セミナー
詳細・お申込みはこちらから◀
対象
理学療法士，作業療法士，柔道整復師
テーマ
膝関節の痛み，どの構造を，どう治して，どう帰す？！
講師
■工藤 慎太郎先生　森ノ宮医療大学インクルーシブ医科学研究所教授
■荒川 高光先生　神戸大学大学院保健学研究科 リハビリテーション科学領域准教授
■川村 和之先生　国際医学技術専門学校理学療法学科学科長
■森田 竜治先生　おおすみ整形外科リハビリテーション科
■河西 謙吾先生　加納総合病院リハビリテーション科科長

参考図書



運動学×解剖学×エコー 関節機能障害を「治す！」理学療法のトリセツ
編集　工藤慎太郎
■B5　頁224　2023年
定価：5,280円（本体4,800円＋税10%）
［ISBN 978-4-260-04621-3］
お手元にご用意いただけますと、セミナーの理解が一層深まります。